



孫中山記念会 公益財団法人への移行のご挨拶

孫文記念館を運営しています孫中山記念会は、1988年に兵庫県より財団法人の認可を受けました。この度、兵庫県より認可をいただきまして、今年4月より公益財団法人へと移行致しました。



当館の「孫文蓮」

公益財団法人として新たなスタート

公益財団法人 孫中山記念会 理事長

田崎 雅元

昨年の「辛亥革命100周年」を経て、今年は次の100年に向けて新たに第一歩を踏み出す年であり、また、日中国交正常化40周年、兵庫県・広東省友好提携30周年を迎える年でもあります。

こうした節目の時にあって、孫中山記念会は、本年4月1日から「公益財団法人」として新たにスタートすることとなりました。法人の目的や事業内容については大幅な変更はありませんが、公益性をより明確にし、組織体制を整備して、安定的な運営体制の確立を図ることが求められています。

また同じく4月1日より、当会は、兵庫県から「移情閣等施設の指定管理者」に指定され、県から直接に管理委託を受けることになりました。

今後とも、管理運営の適正化に努め、さらなる創意工夫により、日本で唯一の孫文記念館としての機能を充実させ、来館者の増加を図り、あわせて地域活性化に寄与したいと考えております。

関係各位におかれましては、公益財団法人として新たなスタートをした孫中山記念会に対して、今後とも一層のご支援を頂きますようお願い申し上げます。

目 次

孫中山記念会 公益財団法人への移行のご挨拶……………(1)	孫文研究会通信……………(5)
呉錦堂が開拓した小東野村との交流……………(2)	研究室便り 孫文に関する資料の受贈について……………(5)
呉錦堂常設展示の更新……………(2)	孫中山記念会 理事会・評議員会報告……………(5)
記念館ニュース……………(2)	移情閣友の会通信……………(6)
点点滴滴 -「人名録」余話-……………(3)	「孫文を語る会」について……………(6)
孫文記念館文庫の図書整理を終えて……………(3)	孫文月間「孫文2012」予告……………(6)
(公財)孫中山記念会 事務局長交代のご挨拶……………(4)	編集後記……………(6)
日本における辛亥革命100周年記念行事……………(4)	

呉錦堂が開拓した小束野村との交流

橋 雄三（元財団法人孫中山記念会事務局長）

今年の2月、呉錦堂令孫呉伯瑄氏ご夫妻と安井三吉孫文記念館館長のお伴で小束野（神戸市西区神出町）のお祭りに参加した。

呉錦堂が開墾した小束野には、彼の業績を顕彰する碑が4ヶ所に建っている。このうち、最も古いのは、1957年にできた小束野集落の中にある石碑で、碑文は小束野の今日の繁栄の基礎を作った人物として呉錦堂に感謝し、その偉業を称えている。

村の人たちは呉錦堂への感謝とお稲荷さんの初午をあわせ、この顕彰碑の横、お稲荷さん前の広場で毎年、お祭りを行っている。顕彰碑とお稲荷さんにお供えをし、簡単な土俵で子どもたちが相撲をとる。餅が配られ、粕汁、赤飯、お酒などがふるまわれる。私たちは子どもの相撲を見ながら、村の人たちとの話を楽しんだ。村人の中に、少数ながら、おそらく祖父母や両親からの伝聞なのだろうけれど、呉錦堂の開墾にまつわる話を知っている人がいて、話が弾んだ。

呉錦堂は1908年から4年かけて、明石郡神出村小束野の原野等を購入し、1916年、開墾工事に着手した。それから、ほぼ百年が過ぎた。この間、入植始まる（1917）、入植20戸（1921）、呉錦堂死去（1926）、財界不況と小作争議による開墾事業の打ち切り（1926）、入植37戸（1929）、呉錦堂の子・孫による小作地経営の続行、神戸の貿易商加藤岩五郎への開墾地売却（1938）、そして終戦および農地改革、と多くのことがあった。（この段落は、浦長瀬隆「呉錦堂の開墾と地主制」『神戸の歴史』第11号に拠る。）

「（小束野は）現在百戸以上の大集落になって栄えている」（呉錦堂池改修記念碑の碑文）。しかし、呉錦堂の開墾の時代から終戦までの生活について、村の古老は、「子どもの頃、ほかの村の人から、『天王山から小束野見れば 裸馬だよ くらがない』と、よくからかわれました。でも、それは本当のことで、私たちの村には、蔵どころか納屋のある家さえ少なかったのです。周りの村並みの生活ができるようになったのは農地改革より後のことです。」と語る。

村の人たちが昔を振り返るとき、「呉錦堂さんが開墾して下さった小束野…」と感謝の言葉が、まず、口に出る。しかし、何と言っても、農地改革までは地主と小作人であって、良好な関係ばかりでなかったことは容易に想像がつく。「小束野の百年」を経て、今があるのである。

私は今回の小束野訪問で、小束野の人たちにも孫文記念館に足を運んでもらえるような展示・行事の企画を期待するとともに、小束野の百年を風化させてはならないと強く思った。



呉錦堂顕彰碑にて。中央は呉伯瑄氏夫妻。

呉錦堂常設展示の更新

1912年に中国浙江、江蘇、安徽等出身の商人たちが中心となって、神戸で社団法人三江商業会（三江公所、現・三江会館）を設立した。呉錦堂はその初代理事を務め、今年で成立100周年を迎えた。これを機に本館における呉錦堂に関する展示を一新した。

今回の展示更新では実物展示を充実したうえで、次の2点に力を入れた。1つ目は、中国革命への呉錦堂の貢献を数字で表し、より立体的に呉錦堂と孫文、革命派との関係を理解できるよう工夫した。2つ目は、呉錦堂と関係のある日中各地の今昔の写真を集め、パネル展示した。これにより、展示室に新たな彩りが加わり、さらに見やすくなった。特筆すべきは、兵庫楽農生活センター提供の地図をもとに作成した神出町小束野の呉錦堂ゆかりの地を訪問するルートである。2時間程の散歩ルートで呉錦堂が後世に残した影響が実感できるだろう。

今回の展示更新が呉錦堂の人物像をさらに明らかにするきっかけとなれば幸いである。

※展示更新の過程で、橋雄三、三江会館理事長姜成生の両氏から写真資料の提供など多大なご協力をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

（主任研究員：徐小潔）

記念館ニュース〈2012年1月～6月〉

- ・2月14日、シンガポールの孫中山南洋記念館からの訪問団一行が来館。
- ・2月27日、神戸第一楼にて中国駐大阪総領事館主催のもと、辛亥革命100周年を記念した各行事の関係者を慰労するため、晩餐会が開催されました。当館スタッフも参加。
- ・3月31日、中国寧波市・寧波帮博物館館長の王輝氏一行が、翌日には寧波合唱団が来館。
- ・3月8日、荒尾市より「友情の梅」（孫文の宮崎兄弟生家訪問を見届けた白梅）の接ぎ木を受贈。本館東側に植樹。
- ・5月29日、宮崎滔天の姉富のご令孫、築地恒夫氏来館。
- ・5月31日、今井嘉幸のご親族の岸本健雄氏来館。
- ・6月8日、シンガポールで孫文の治療に当たった西村竹四郎のご令孫が来館。
- ・6月26日、古賀廉造のご令孫奥津成子氏来館。



晩餐会の様子



「友情の梅」

（研究員：村田省一）

点点滴滴—『人名録』余話—

昨年11月に『孫文・日本関係人名録』が刊行されてから半年がたちました。この間、多くの方々から記述の誤りの指摘やご意見をいただきました。それは、専門の研究者だけでなく、一般の市民の方々からのものも少なくありませんでした。ここでそのなかのいくつかをご紹介します。

○東京の大崎さんから、「久原仲東」(53頁)を「くはらちゅうとう」としているがこれは「ひさはら なかはる」と読むべきで、職業も「鉱業」としているが「三井物産」が正しい、というご指摘をいただきました。この人物については参照すべき文献もなく、久原房之助から類推して「くはら」と読み、「仲東」は読めないの音読みのままにしておいたのです。このようなご指摘はまことにありがたいものです。

○同じく東京の奥津さんからは、ご自身の書かれた『私の祖父 古賀廉造の生涯』(慧文社、2011年)を贈っていただきました。古賀が、1905年、警保局長という立場にありながら、孫文たちの民報社社屋の保証人になっていたことを書き落としていたことには気がついていましたが、1913年5月4日付で、孫文が古賀に手紙を送っていたことは全く知りませんでした。コピーがこの本に載っています(『孫中山全集』には未収録)。奥津さんは、新宿区弁天町の古賀邸前で孫文ととった集合写真があったはずと探しておられます。どなたかご存知ないでしょうか? それにしても80歳を越えてなお一人で史料を渉猟、一書にまとめられたパワーにはただただ驚かされます。

○1911年12月、孫文が滔天たちと香港から上海に向った際に乗った船の名前を「デンバー号」と書きました(「緒方二三」、41頁)が、これはまちがいで、武上真理子さんの調査によれば「Devanha」(“The North China Herald” Dec.30,1911)ですので、「デヴァナ」号とすべきでした。緒方の当時の通信(『九州日日新聞』1912年1月3日)には「デバンハー号」とあります。どこで「デンバー号」になってしまったのでしょうか?

以上は、この間、寄せられたご指摘、ご意見の一端です。私たちにとっては、日々発見の連続です。自らの誤りを正すのもまた楽しいものです。(安井記)

・『孫文・日本関係人名録』ホームページ開設

当館ホームページ上で本書についてのページを開設しました。収録日本人人名一覧などを公開しています。特に本書をお持ちの方はお手数ですが、当ホームページで補訂表の最新版をご確認下さい。

また本書に対する皆様のご意見を募集したり、孫文に関する情報を紹介する「孫文のひろば」もごさいます。皆様の投稿をお待ちしております。

(本館ホームページ<http://sonbun.or.jp/jp/>より、画面左側メニュー内の「孫文・日本関係人名録」へと進んでください。)(研究員：村田省一)

孫文記念館文庫の図書整理を終えて

はじめに

2010年4月から始めた孫文記念館文庫の資料整理が3月末で終わりました。

35年間働いた神戸大学図書館を退職する時、再度このような仕事をしようとは予想もしなかったことでした。このお話を伺った時は、複雑な図書目録作成の仕事に頭が順応できるだろうか、途中で投げ出すことにならないだろうか、など不安が一杯でした。でもそれを上回ったのが安井先生のお手伝いをしたい、という意気込みでした。幸いにして元同僚の広森孝子さんが計画段階から入って下さり、私たちの手に負えないシステム面では前田哲治さんが引き受けて下さることになり、無事に今日を迎えることが出来て、ほっとしている所です。

資料の登録

資料の登録は、記念館独自のシステムを開発することが望ましいのですが、予算的に無理であることがわかり、国立情報学研究所(NII)が運用する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)に加盟して、登録しました。これは、全国の大学図書館等が参加して共同構築しているデータベースですが、記念館の図書館IDを入れることで、当館の蔵書だけを検索することもできます。

資料の分類

図書の分類は日本十進分類表(NDC)という日本で最も多く使われている分類表によりました。

雑誌の分類は誌名の頭文字をアルファベット3文字で表記しました。

資料の内訳

所蔵資料の内訳は下図の通りです。(2012. 3. 31現在)

	図 書		雑 誌	
	件 数	冊 数	件 数	冊 数
日 本 語	2,621	3,141	84	1,698
中 国 語	4,162	5,756	113	2,362
その他の言語	356	356	12	0
合 計	7,139	9,253	209	4,060

資料は全部で図書9,253冊、雑誌4,060冊で、その中には記念館にしか存在しない図書が1,417件、雑誌50件含まれています。記念館の蔵書がいかに貴重なものであるかが窺えます。

最後に

最後になりましたが、図書装備を担当して下さいました西谷さん、坪田さん、渋谷さんと、楽しく共に過ごさせて頂いた記念館スタッフの皆様にご心から感謝致します。ありがとうございました。

今後、当館の資料が広く利用されることを願っています。

(竹中京子)



記念館文庫書庫

(公財)孫中山記念会 事務局長交代のご挨拶

ご挨拶

事務局長 中村 伸彦

6月1日に事務局長に就任しました中村伸彦です。

私は、舞子に近い須磨で育ちました。幼い頃から舞子駅の南にある、松林に囲まれた六角（とっていました）の洋館を目にしてきました。でも一度も入ったことはありませんでした。

社会人になってからは川崎重工業に勤務し、朝晩移情閣を見ながら通勤した時期が結構長くありました。

まさかそこにお世話になることになるとは、深いご縁があったものと感動を覚えております。

「孫文」を通して中国に関わって、中国を深く知り、日中の文化交流に携われる機会を頂けたものと感謝致しております。

仕事の関係で海外での生活が長かったので、友好交流の面では少しはお役に立てるかなと思っておりますが、皆様の絶大なるご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



中村新事務局長

「孫中山記念会」の基盤充実に向けて

前事務局長 松原 要

2009年4月に事務局長に就任以来3年2カ月。

事務局体制の強化や法人組織基盤の確立などに注力して参りました。その集大成として、公益財団法人への移行に取り組み、本年4月1日には「公益財団法人孫中山記念会」がスタートしました。

この間、辛亥革命100周年という節目の年を迎え、国際シンポジウムや特別展示など様々な記念行事を実施致しました。また、日本で唯一の孫文記念館として、研究室や書庫等を整備し、研究成果や所蔵の図書文献情報を、内外に発信する体制を整えました。併せて、孫文記念館紹介映像の上映施設も整備しました。

さらに本年4月からは、「県立施設指定管理者」に指定され、一層充実した管理運営に努めております。

こうした重要課題を解決した今は、安堵の気持ちで一杯です。この間、様々な面でお世話になりました関係の皆様にお礼申し上げます。



松原前事務局長

日本における辛亥革命100周年記念行事

(2011年、一部)

- ・3月5日 シンポジウム 20世紀東アジアの立憲制
－辛亥革命と大正政変－(広島県立文書館)
- ・3月12日 中山先生を偲び 辛亥革命を記念する集い
(孫文記念館)
- ・3月13日 孫文辛亥革命百周年記念講演会
極楽寺義烈荘物語第一話『孫文が日本人、
中国人に問うていること』
(鎌倉生涯学習センター)
- ・5月～7月 辛亥革命100周年記念講演会
現代中国の足跡と未来
(福岡天神シティセンター)
- ・6月～9月 収蔵品展 渋沢栄一と孫文 (渋沢史料館)
- ・6月、11月、
12月 神戸華僑辛亥革命100周年記念事業
講演、展示会など(中華会館など)
- ・7月2日 シンポジウム 東アジアの地平から見た辛
亥革命の思想的価値－近代化と留学交流
の意義 (神戸大学)
- ・7月～9月 特別展 孫文と梅屋庄吉(東京国立博物館)
- ・8月20日 「中国同盟会の成立と辛亥革命百周年」
記念講演会 (ホテルオークラ)
- ・10月～12月 荒尾市辛亥革命100周年記念イベント
(宮崎兄弟の生家など)
- ・10月22日 辛亥革命100周年記念シンポジウム
～“千万年”光かがやく日中友好を目指して～
(荒尾総合文化センター)
- ・10月29～
30日 公開講演シンポジウム 辛亥革命と東アジア
(福岡エルガーラ中ホール)
- ・10月～2012年2月 辛亥革命百周年記念展示 (東洋文庫)
- ・10月～2012年3月 孫文・梅屋庄吉と長崎 特別企画展
(長崎歴史文化博物館)
- ・11月5～
6日 辛亥革命100周年記念シンポジウム
辛亥革命とアジア (神奈川大学)
- ・11月12日 国際シンポジウム
辛亥革命・孫文・東亜同文会 (愛知大学)
- ・11月19～
20日 辛亥革命100周年記念国際シンポジウム
－アジア主義・近代ナショナリズムの再検
討－ (東京大学)
- ・11月23日 中国辛亥革命100周年記念シンポジウム
in かながわ (横浜市開港記念会館)
- ・11月～12月 孫文2011 (孫文記念館)
- ・12月3～
4日 辛亥革命百周年記念国際シンポジウム
(東京会議) (東京大学)
- ・12月10日 辛亥革命100周年記念国際シンポジウム
(神戸会議) (神戸大学)
- ・12月10日 公開シンポジウム 近代日中の交流と軌轢
－「辛亥革命100年」に寄せて(千葉大学)
(研究員：村田省一)

孫文研究会通信

*2012年度(1~6月)活動

・2012年度孫文研究会総会、冬季例会：

1月9日(月・祝)中華会館

研究報告「郭嵩燾『中庸章句質疑』の清末思想史上における位置」

(小野泰教：東京大学大学院人文社会系研究科助教)

・『孫文研究』第50号発行(3月)

*2012年度(7~12月)活動予定

・孫文研究会夏季例会：7月28日(土)KCCビル

研究報告「戦後日中関係を再考する——日華平和条約から日中平和友好条約まで」

(井上正也：香川大学法学部准教授)

・『孫文研究』第51号発行

・「孫文2012」講演会：11月10日(土)孫文記念館

題目：「教育がつなく日中——中国の指導者になった孫文の同志たち」

講演：王敏氏(法政大学国際日本学研究所教授)

(孫文研究会代表理事：緒形康)

研究室便り

孫文に関する資料の受贈について

『孫文・日本関係人名録』を編纂中という話が、新聞など通じて紹介されるや、今までまったく面識のなかった方々から、自分の家に孫文に関する手紙などが残っているので記念館に寄贈したいがどうですか、といったお話を寄せて下さるようになりました。ありがたいことです。また、新たに「宋教仁の書」の寄託を受けました。ここでお礼をかねてご紹介させていただきます。

○「孫文の犬養毅宛の手紙」(1905年6月5日)

大阪の脇米一・麻理子ご夫妻からご提供いただいたものです。日露戦争の日本海海戦で日本の聯合艦隊が大勝したニュースを孫文はパリで聞きました。そのとき孫文が宮崎滔天宛に書いた手紙は『孫中山全集』にも収録されていますが、犬養毅宛の手紙の存在は長い間知られていませんでした。

○「幸運丸事件」(1907年)関係の写真と文書

東京の藤岡庄衛さんから贈っていただきました。藤岡さんは、幸運丸の船主だった和歌山の藤岡幸一郎のお孫さんです。1907年秋、三上豊夷らが孫文の要請に応じて武器弾薬を集め、幸運丸で広東省東部の沖合まで運んだが受け渡しに失敗した事件のことです。

これからも、こうした原資料が本館に寄せられることを願っております。

○宋教仁が三上豊夷に贈った書

神戸の三上隆さんから寄託いただきました。氏は、三上豊夷の曾孫に当る方。おそらく、1909年1月、宋教仁が神戸に来た際、海岸通の三上合資会社を訪ね、豊夷と会見、その際、書いたものと推測される。文は、戦国時代の「編鐘」の金文から取ったもの。(安井記)

孫中山記念会 理事会・評議員会報告

1 平成23年度・第3回理事会・評議員会

(平成24年3月27日：中華会館)

・平成23年度補正予算、平成24年度事業計画及び収支予算が承認された。

・県立施設指定管理者に指定されたことに伴う管理協定を締結することが承認された。

・公益財団法人への移行後の会長に井戸敏三兵庫県知事を、顧問に矢田立郎氏、大橋忠晴氏、谷野作太郎氏、金沖及氏、黄彦氏、肅潤君氏、曾坤地氏を委嘱することに同意がなされた。

・公益財団法人への移行後の館長に安井三吉氏を、副館長に陳來幸氏を委嘱し、任期は2年とすることが承認された。

2 平成24年度・第1回理事会(5月10日：中華会館)

・公益財団法人へ移行後の最初の理事会が開催された。

・平成23年度事業報告及び決算報告が承認された。

・定時評議員会を5月31日に開催する旨の議決がなされた。

・前任者松原要氏の辞任に伴い、中村伸彦氏が常務理事兼事務局長に選任された。

・国父記念館長の交替に伴い、新たに王福林氏を顧問に委嘱する議決があった。

3 平成24年度・第1回評議員会(5月31日：中華会館)

・公益財団法人へ移行後の最初の評議員会が開催された。

・平成23年度事業報告及び決算報告が承認された。

・前任者の辞任に伴い、新たに理事2名及び評議員2名が次の通り選任された。

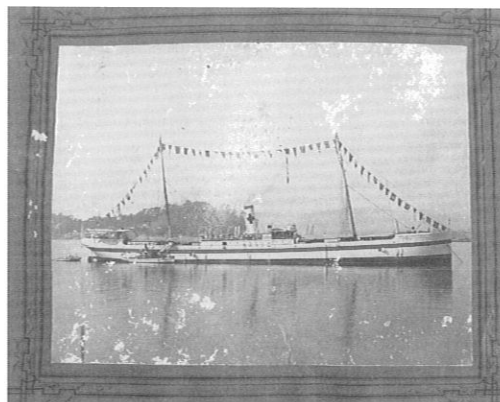
【理事】森安秀和、中村伸彦

【評議員】平木秀男、平野正幸

・定款第16条中の定時評議員会の開催時期に関して、「毎年度5月」としていたものを「毎年度6月」に変更する議決があった。

評議員(15名)理事(14名)監事(2名)の一覧は、ホームページで公開しております。

*本報告の詳細は、孫文記念館ホームページをご参照ください。(孫中山記念会事務局参事：松原要)



幸運丸の写真(藤岡庄衛氏寄贈)
9月15~30日に当館にて企画展「幸運丸事件」を予定。

移情閣友の会通信

*2012新春のつどい 1月29日(日) 舞子ピラ 藤の間

40名の参加者があり、グループ毎の合唱を披露、福引等で2012年の新春行事を祝い楽しみました。

*中国語特別講座の開設

山田先生のご尽力により通常の中国語講座では満足できない人のために「会話専修講座」「原典で読む《中国歴史講座》」を開催、好評を得ました。

*第1回中国語講座文化祭&懇親会(交流会)

3月25日(日) 舞子ピラ、舞子の間

文化祭は初めての試みでしたが、各クラスの皆さんの中国語学習への熱意が伝わってくるとてもさわやかな会になりました。次回は更に盛んな中国語講座の交流になる様期待しています。

*2012年度総会 4月29日(日) 移情閣1階

総会の前に神戸中華同文学校名誉校長の愛新翼氏による講演「神戸市民と中華同文学校」がありました。総会では愛新会長をはじめとする新役員の就任が承認されました。

*2012年公開文化講座

5月には移情閣復原工事に関わってこられた塚原淳氏に、6月には古代チベットの研究がご専門の神戸学院大学文学部教授大原良通氏に講演して頂きました。

*8月以降の行事予定

- ・移情閣まつり・月見の会 9月29日(土) 移情閣周辺
- ・広東省友好提携30周年記念行事・兵庫県訪問団への参加 広州・マカオ旅行(11月11日~16日)
- ・孫文2012「音楽と講演の会」11月18日(日) 移情閣
特別対談:「歴史の中の日本と中国」(仮題)など
- ・2013新春のつどい 2013年1月27日(日) 舞子ピラ神戸(移情閣(孫文記念館)友の会企画運営委員長 佐瀬祥一)

編集後記

1972年9月、日本と中華人民共和国は国交を正常化しました。日中間にとって大きな転機となりましたこの年から今年で40年、日本の各地で日中国交正常化40周年を記念する様々な催しが開かれています。神戸では、9月より元町の華僑歴史博物館にて「日中国交正常化40周年記念特別展」が開催される予定です。(こちらの詳細は華僑歴史博物館までお問い合わせ下さい。)

当館では9月15~30日に企画展「幸運丸事件」を開催する他、右の通り、「孫文2012」として、激動の日中間を生きた愛新覚羅溥傑・浩夫妻の特別展示などを開催します。ご期待ください。

その他にも孫文記念館文庫、『孫文・日本関係人名録』情報の公開など、皆様の便宜にかなう様に取り組みを今後とも続けてゆくつもりでありますので、ご意見・ご利用をお待ちしております。

(M・S)

「孫文を語る会」について

昨年、辛亥革命100周年を機に、インターネット環境を利用しながら日中の近代史と共に孫文を学び、語り、孫文記念館、孫文研究会などの活動を理解し支援することを目的に、大規模なネット会員を有する組織を目指して「孫文を語る会」というボランティア的な会を立ち上げました。

ホームページ上(www.sonbun-katarukai.org)にフェイスブック、ツイッターがあり、それにアクセスすることにより、日本、世界中の孫文に関心のある人々と対話、意見交換など交流の場が提供されています。

会員規模としては当面1万人、将来は中国、台湾など海外の会員を含めて10万人の人の輪が出来ればと願っています(現在約1,200人の方が入会されています)。

また、孫文記念館のホームページとも相互にアクセス出来るようになっています。

会員は、一度限りの入会金1,000円が必要ですが、年会費は不要です。

孫中山記念会賛助会社は無料で、それ以外の団体からは年1万円でホームページへのバナーの貼り付けを受付けていますので、それぞれの団体のお知らせなどにご利用して頂けます。

また、会員になられた方には、会員カードをお渡し致します。

入会方法などはホームページにありますので、是非ご覧になって参加されるようお誘い致します。

(理事長: 田崎雅元)



孫文を語る会のHP

孫文月間「孫文2012」予告

11月1~30日に、20世紀の日中間を生きた愛新覚羅溥傑・浩夫妻についての特別展「溥傑・浩の日中友好」展を開きます。また、法政大学教授の王敏氏の講演会(11月10日(土))や、福永靖生氏(溥傑・浩夫妻ご息女)と愛新翼氏(神戸中華同文学校名誉校長)の特別対談「歴史の中の日本と中国」(仮題、11月18日(日))を予定しています。詳細は当館HP上などで追ってお知らせいたします。

孫文記念館館報『孫文』

第9号 (2012年7月26日発行)

発行者 公益財団法人 孫中山記念会

〒655-0047 兵庫県神戸市垂水区東舞子町2051

Tel: 078-783-7172 Fax: 078-785-3440

e-mail: sunwen20@aioros.ocn.ne.jp

URL: http://sonbun.or.jp

(題字は孫文記念館所蔵の孫文自筆の書より。ただしオリジナルは経書き)